



AGULI

巻頭エッセイ 「電子本」と「紙の本」	近藤 泰弘	p.2
特集 新入生にお薦めする本		
『聖遺物崇敬の心性史 西洋中世の聖性と造形』	津田 徹英	p.3
私の時計	上田 琢哉	p.3
因果関係を探る	矢崎 之浩	p.4
法律をこれから勉強する皆さんへ	山下 典孝	p.4
『ケースに学ぶ青山企業のマーケティング戦略』	宮副 謙司	p.5
『倫理の死角ーなぜ人と企業は判断を誤るのか』	吉田 修己	p.5
大学図書館のウェブサイトが新しくなりました		p.6
図書館 / 関連施設紹介		p.7
図書館広報板		p.8

「電子本」と「紙の本」

前図書館長 近藤 泰弘

KONDO Yasuhiro

西暦 100 年頃、中国で紙が発明され、そして、1440 年頃にグーテンベルクによって活字印刷が発明され、それからというもの、紙に印刷された本が広く用いられてきた。図書はすべてそのような形態であった。

しかし、1990 年代になって大きな変革が起きた。それは WWW（ワールドワイドウェブ）の発明である。WWW は、スイスにある欧州原子核研究機構（CERN）の技術者のティム・バーナーズ＝リーが所内の文書の管理システムとして発明したもので、現在、ウェブサイト（ホームページ）として使われている技術（URL や HTML や http 等）のすべてである。これによって、誰もがインターネット上に自由に文書を置いて公開することが可能になった。電子図書についての第一の発明であるといえる。これに対して、手元の機器で読むタイプの電子図書も、1990 年代になって次々と開発された。SONY の小型 CD-ROM の電子ブックプレーヤ（DataDiskman）などもあったが、何と云っても、第二の電子図書の革命と言えるのは、2007 年の Amazon による Kindle システムの発表である。これによって、ブックリーダーを極めて手軽に持ち運ぶことができ、しかも、相当数の本が電子本として利用できることになった。

このように、紙の本の歴史に比べると、電子本の歴史は極めて浅い。また、和紙の本が 1000 年以上の耐久性があるのに対し、電子本はその寿命についての信頼性が低い。初期の CD-ROM やフロッピーディスクはすでに媒体の劣化から読めなくなっているものも多いし、ネット上にある文書は、供給者が途絶えると消えてしまったりする。しかし、物理的スペースをまったく占有しないという電子本のメリットも確かに大きい。

これからは、紙の本ではなくて、電子本の時代で

あると言われてはいるが、電子本の本格的登場から 10 年たった現在の時点で見ると、意外に電子本は普及していないという気がする。新聞・雑誌などがネット媒体のニュースに押されて退潮しているのに対し、文庫本や新書本に代表される普通の書籍を電子本の形で読んでいる人は意外に少ない。本学での授業の教科書を電子本で指定している教員がいったいどれだけいるだろうか？ これは日本だけではなく、電子本が日本より普及しているアメリカでも、近年、電子本の普及速度は頭打ちと言われる。自分を振り返ってみても、Kindle 本のタイトルを数百冊保有しているなど、かなり積極的に電子本を読むほうだと思うが、それでも紙の本の方を購入することの方が圧倒的に多い。一切の周辺機器なしで、また、電源なしで読むことができる紙の本の便利さには、捨てがたいものがある。授業で使うときなど、紙の本ならば、何冊も回覧して見せることもできるが、電子本ではそういうわけにもいかない。また、最近では、若い人の間では、紙の本を購入して読み終わると、メルカリ等のネットの売買サイトで売却してしまうという動向もあるようであり、これも電子本にはできないことだ。電子本には「古書」がないのである。

ということで、これから、図書館では、紙の本は減っていき、電子本がその大半を占めていくという未来予測は現時点ではかなり危ういと言えるのではないだろうか。現状の傾向が続くとするならば、雑誌・新聞・漫画等は確かにその大半が電子本あるいはネットに移行すると考えられるが、通常の新刊本については、紙の本のシェアが電子本を下回ることは数十年単位でないと考えられる。現在、本学の図書館がその建築計画途上にあるが、そのような観点を抜きには計画できないものと考えている。

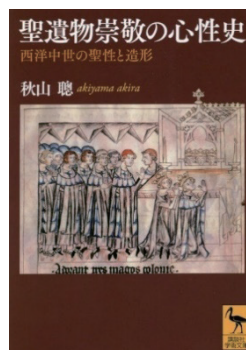
（文学部教授 日本語文法・コーパス言語学）

特集 新入生にお薦めする本

『聖遺物崇敬の心性史 西洋中世の聖性と造形』

津田 徹 英
TSUDA Tetsuei

標題の「聖遺物」とは、キリスト教文化圏にあって信仰のために命を落とした殉教者、教皇や司教ほかの聖職者の、①遺体・骨灰等、②彼らが生前に身にまったり触れたりしたモノ、および、③ ①ないし②に接触したモノを意味する。これらの聖性を保証したのは聖人に生前から宿り、死後も①、②、③に残存した特別な力であった。それはかれら自身に由来するのではなく、天上の神からくる力であり、かれらを介して奇跡を起こすとみなされていた。もとよりこれらの聖遺物は現実的にはそれ自体、著者の言を借りれば「聖性という価値を自ら表明する手段を通常持たない」(217頁)。それを収納する容器のかたち、崇敬の儀礼などのビジュアル・イメージとパフォーマンスがともなうことではじめて聖性の呈示が可能となった。必然的に聖遺物をかく見せたいという保持者の意図が反映されることになる。本書はその様々な事例を紹介するが、モノへの聖性の付与のありようを考えるうえで洋の東西を問わず通底していることに気付かされる。本書は2009年に単行本として刊行をみたが、今回、講談社学術文庫の一冊として新装刊行となった。宗教造形を考えるうえで多くの示唆が得られる書である。



秋山聰著
講談社 2018年
(青 190.23/A1-2)
(相 192.3/A38S)

(文学部教授 日本・東洋美術史、密教図像学)

私の時計

上田 琢 哉
UEDA Takuya

現代は科学的であるということが非常に力をもっている時代です。したがって、ものごとを捉える目も客観的であることが尊ばれます。実際われわれの生活は、そのような目によってものごとを捉える<科学の知>によって発展してきました。例えば、私の腕時計を説明するのに、「青色で」「日本製で」「1万円で」と言えば、私という個人から切り離された客観ですので、誰にでも通じ、意味をもちます。一方で「この時計は、彼女からもらった大事な時計で、もう古くなっているけど捨てられないんだ」と言ったらどうなるのでしょうか。これは「私の時計」の説明をしているのであって、客観性を持ち得ません。ゆえに、これまではそのような説明はあまり意味がないものとされてきたのです。しかし、本当にそうでしょうか。場合によっては、そのような「私の時計」のお話こそ大事な時があるのではないのでしょうか。

<臨床の知>とは、現代では価値が認められづらくなった「私にとっての世界」を、他者がかかわりながら理解するといった知のあり方を意味します。中村雄二郎著『臨床の知とは何か』(岩波新書)は、科学の知と対比しながら、この臨床の知を詳しく説明した本です。科学的な視点が大事な現代だからこそ、それ以外の世界の捉え方についても心に留めておいて欲しいと思い、ここにお薦めします。



岩波書店 1992年
(青 492/N2-1)
(相 492/N2-1)

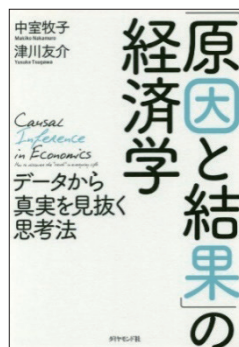
(教育人間科学部准教授 臨床心理学)

因果関係を探る

矢崎 之 浩

YAZAKI Yukihiko

小中学生を対象とした調査で、「朝食をしっかりと食べている生徒ほど学校の成績が良い」という統計結果があります。この結果から「朝食を食べる」(原因)と「学校の成績がよくなる」(結果)という因果関係を想像して、成績を上げるために朝食を食べたほうが良いと思う人もいるかもしれません。



中室牧子、中川友介著
ダイヤモンド社 2017年
(青 331.19/N49-1)
(相 331.19/N37G)

では、「朝食をしっかりと食べている学生ほど学校の成績が良い」という調査結果は因果関係を示しているのでしょうか。もしかしたら、「朝食をしっかりと食べている学生」の親は教育にも熱心で、そのような親は子供を塾などにも通わせているため「学校の成績が良かった」だけかもしれません。そうだとすると、朝食を食べたからといって学校の成績が良くなるとはいえません。

昨今、ビジネスや政策決定など様々な分野で統計分析の重要性が増しています。しかし、統計結果の解釈を間違えてしまうと、誤った経営判断や政策決定をしてしまうかもしれません。本書は原因と結果という因果関係に焦点をあてて統計結果を解釈する手段をわかりやすく説明しています。タイトルに「経済学」という文字が入っていますが、経済学の知識は必要ないため、全学部の学生に本書をおすすめします。

(経済学部准教授 政治経済学、公共経済学)

法律をこれから勉強する皆さんへ

山下 典 孝

YAMASHITA Noritaka

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは、これから法学部に入学しさまざまな法律や政治に関連する勉強をすることになります。



『カフェパウゼで法学を』
横田明美著
弘文堂 2018年
(青 320.7/Y9-1)

今回ご紹介する書籍(以下「本書」という。)は、大学生活を舞台に、大学教員と学生との対話形式で法学の学び方を知ることができるものです。本書は、大学と高校までとの学習の違い、レポートや試験での答案の書き方等、1年生から4年生までの各段階での法学の学び方を説明してくれています。さらに法学部生が卒業後にどのような進路の可能性があるかについても説明されており、本書を入学段階で読んでおくことで、4年間の学生生活とその後の進路も考えて、勉強に取り組むことができます。

2年生での入門演習や3年生・4年生の専門演習でディベートを実施する演習があります。本書にはディベートの方法についても説明があります。また4年生の専門演習では卒業論文の提出が原則、義務付けられています。その卒業論文作成に関しても本書を読むことによりその準備等を知ることができます。

本書を入学後早い段階で読めば、皆さんが法学部の講義に戸惑うことも少なくないと考えます。そして、4年間の有意義な学生生活を送り、卒業後の進路に関し選択の幅を広げておきたい方には是非ともお勧めしたい一冊と考えています。

なお、法学部に入学したが法律に興味を持たない方には、中央大学法学部編『高校生からの法学入門』(中央大学出版部、2016年)を読んで欲しいと考えています。法律を学ぶことは人を知ること、社会を知ることであり、皆さんが大学を卒業し社会人となったときにも役立つことが理解できると思います。4年間の貴重な時間を無駄に過ごさないで下さい。

(法学部教授 商法・保険法)

『ケースに学ぶ青山企業のマーケティング戦略』

宮 副 謙 司

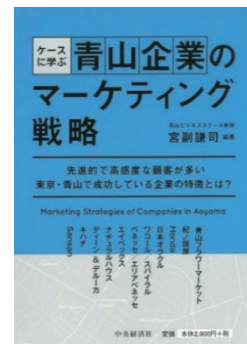
MIYAZOE Kenshi

私が新入生の皆さんにお伝えしたいことは、青学周辺には日本を代表する企業やブランド・ショップが数多くあり、そのビジネスやマーケティングについて学ぶ機会に恵まれているということです。例えば(1)青山で創業した企業、(2)青山に進出し発展した企業、(3)青山を起点に新たなビジネスを創造する企業があり、メーカー、商社、小売、サービスなど様々な業種で活発な活動を展開する企業が揃っています。

このような企業群についてまとめたのがこの本です。しかも執筆者は、私が所属する大学院国際マネジメント研究科（青山ビジネススクール）の学生11名で、各自1社（1章分）を担当し執筆しました。

またこの本は、青山スタンダード科目「仕事力基礎論」の教科書ですので、その授業でも学んでください。さらに青学には教員と学生、学生相互が親しく交流する「アドバイザーグループ」活動がありますが、私の担当では青山企業を実際に訪問し研究します。この本を起点に様々な学び体験して欲しいと思います。今後の自分の進路の検討や就活にもこの本が役に立つと期待しています。

（国際マネジメント研究科教授 マーケティング、小売業態論、地域活性化論）



宮副謙司編著
中央経済社 2015年
（青 675/M99-1）

『倫理の死角—なぜ人と企業は判断を誤るのか』

吉 田 修 己

YOSHIDA Osami

我が国では2015年にコーポレートガバナンスコードが導入され、コンプライアンスの重要性が喧伝されている一方、残念ながらここ数年、多くの企業において不祥事が発生している。本書はエンロン事件や2008年の金融危機など多くの事例を題材に、なぜ非倫理的な意思決定や行動が取られてしまうのか、個人や組織あるいは社会における意思決定プロセスに潜む様々な落とし穴を浮き彫りにしている。

人はある行動ないし意思決定を行う前は、自分は倫理的な選択をする、あるいはすべきだと思っても、実際には倫理に反する行動を取ってしまうことがあるが、その原因を「限定された倫理性」という概念を用いて説明している。その主な要因は意思決定をゆがめる心理的なバイアスであるが、人は概して、自分の倫理上の判断がバイアスの影響を受けていることに気付かず、非倫理的な選択を行ってしまうことがある。そして非倫理的な選択をしたことに気が付いても、「法律に従っただけだ」「法律は守っている」「上司の命令に従っただけだ」「みんながやっている」といった倫理の遮断を行ってしまう。また他人の非倫理的行動に気が付いても、自分に不利益が及ぶ状況だと、それを都合よく見落とす人は極めて多いと指摘している。

本書はこのような倫理的な意思と行動のギャップが生じる要因を明らかにし、我々が本来の倫理観と矛盾しない意思決定を行い、所属する組織と社会全体の倫理を高める方法を示唆しており、「倫理」を考える上で参考とすべき実践的な図書である。

（会計プロフェッション研究科特任教授 会計監査）



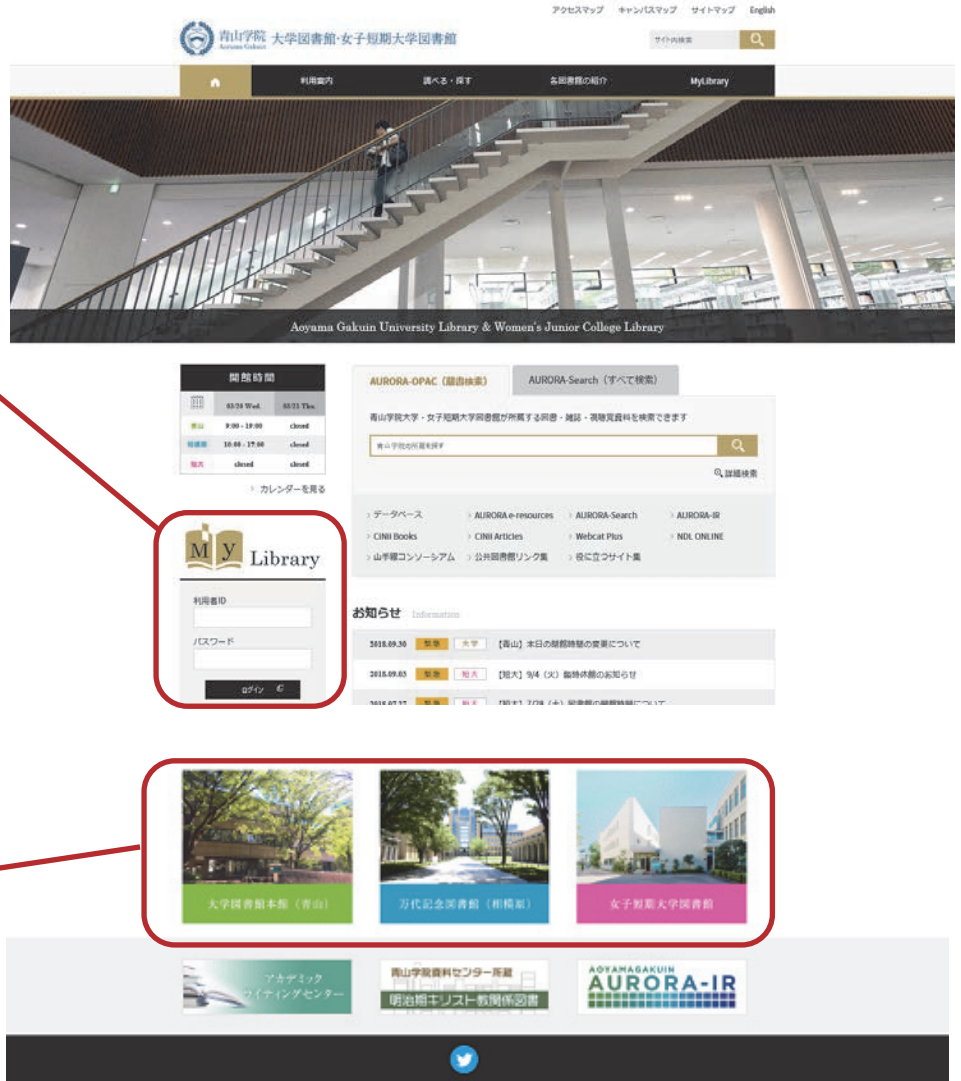
マックス・H・ベイザーマン、
アン・E・テンブランセル著
池村千秋訳、谷本寛治解説
NTT出版 2013年
（青 335.15/B5-1）
（相 335.15/B29R）

大学図書館のウェブサイトが新しくなりました

2019年4月より、新ウェブサイトがサービスを開始しました。
新しくなった点や、今後の活用のヒントをご紹介します。
これからも学習や研究にご活用ください。



※画面イメージは、今後変更になる場合があります。



My Libraryログイン

トップページからMy Libraryに直接ログインできるようになりました。貸出期間の延長や図書の予約をはじめ、各種サービスを利用する際の入口となります。

▶利用者IDとパスワード

学生・教職員はAOYAMA Portalと共通。「図書館利用カード」をお持ちの方はカード番号とご自身で登録したパスワードになります。

各館の情報

青山・相模原・短大各館のフロアガイドや資料配置、施設・設備の利用方法、講習会のお知らせなどはこちらで確認できます。

蔵書検索システム（OPAC）やMy Libraryの各種機能もリニューアル！

使いやすくなった
OPAC

新着図書などのスタンプ表示、
一覧画面への書影掲載など
さらに見やすく！

検索結果一覧画面でも
所蔵情報が確認可能に

「隣の本」
同じ書架に並んでいる図書の
情報が見られる

予約・申込
も便利に！

図書館主催の講習会
がウェブから申込可能に

レファレンス申込にあたって
よくある質問が検索できる

(教員用)授業時オリエンテー
ション申込フォームが完成

各種サービスの詳細な利用方法は、各館レファレンスカウンターまでお問い合わせください。

図書館 / 関連施設紹介

青山キャンパスでは、本館、8号館図書館学習室、アカデミックライティングセンター（9号館）、および女子短期大学図書館、相模原キャンパスでは、万代記念図書館（館内各施設）が利用できます。

青山キャンパス



▲本館 1F 新着図書紹介



▼本館 1F 共同学習室



▼8号館 1F 図書館学習室



9号館 1F
アカデミックライティングセンター▼

▶本館 1F 閲覧室



相模原キャンパス 万代記念図書館



▲ 1F 入口

1F 数学と物理のお助け部屋▼



1F 閲覧席▼



2F アカデミックライティングセンター▼



図書館長人事のお知らせ

近藤泰弘図書館長(3月31日付任期満了)に代わり、4月1日より野末俊比古教授が図書館長に就任されました。

4月のオリエンテーションのご案内

青山キャンパス	
本館 図書館オリエンテーション / 図書館ツアー	
<p>●【新入生対象】図書館オリエンテーション</p> <p>青山本館の利用方法や資料の探し方など、図書館を使うための基礎的な利用講習会です。各回 30 分間</p> <p>4/2 (火) ① 9:30 ~ ② 13:00 ~ ③ 14:00 ~ 4/3 (水) ① 9:30 ~ ② 11:00 ~ 4/4 (木) ① 11:30 ~ ② 13:00 ~ ③ 18:30 ~ 4/5 (金) ① 9:30 ~ ② 16:00 ~ (in English/ 英語で実施)</p> <p>定 員: 各回先着 300 名 開催場所: 17 号館 3 階 17311 教室</p>	<p>●【全学年参加可能】図書館ツアー</p> <p>図書館員の案内で実際に各フロアを巡り、書架の見方や貸出・返却方法、各施設の使い方を学ぶツアー形式の体験的オリエンテーションです。</p> <p>4/8 (月) ~ 4/12 (金) 各回 30 分間 時 間 (各日とも): ① 10:30 ~ ② 12:40 ~ ③ 15:00 ~</p> <p>定 員: 1 グループ 10 名で館内を見学 集合場所: 大学図書館 1 階 カウンター前</p>
9号館1階 アカデミックライティングセンター (AWC) ガイダンス / セミナー	
<p>● AWC 利用ガイダンス 各回 30 分間 レポートや論文を書く技術の向上をサポートします!</p> <p>4/2 (火) ① 11:00 ~ ② 14:00 ~ ③ 15:00 ~ <17 号館 4 階 17407 教室> 4/4 (木) ① 11:00 ~ ② 13:30 ~ <17 号館 4 階 17406 教室> 4/5 (金) ① 11:00 ~ ② 14:00 ~ ③ 15:00 ~ <17 号館 3 階 17306 教室></p> <p>● セミナー: アカデミックライティングの基本 各回 30 分間 会場 17406 教室 4/8 (月) ~ 4/12 (金)、4/17 (水) ~ 4/19 (金)、4/22 (月)、4/23 (火) の 12:40 ~ ※各回のテーマなどの詳細は AWC ホームページでご確認ください。</p>	

相模原キャンパス 万代記念図書館 / アカデミックライティングセンターオリエンテーション【新入生対象】

図書館の利用方法や地下の自動書庫にある本の取り出し方を説明します。また、図書館 2 階には文章作成を支援するアカデミックライティングセンターがあり、レポート作成や今後の文章作成に役立つ利用方法を説明します。その後、実際に図書館内に入って、クイズを解きながら探索します。各回同一内容です。

※地球社会共生学部とコミュニティ人間科学部は、必修科目の授業内で別途実施します。教員の指示に従ってください。

日 程	時 間	対象となる学部・学科	場 所
4/3 (水)	12:40 ~ 13:40	電気電子、機械創造、経営システム	B 棟 3 階 (エスカレーターで 3 階へ) B303 教室 B304 教室 B308 教室
	14:00 ~ 15:00	情報テクノロジー	
4/4 (木)	13:50 ~ 14:50	社会情報	
	15:20 ~ 16:20	物理・数理、化学・生命科学、社会情報	
4/5 (金)	10:00 ~ 11:00	理工全学科、社会情報	
	11:20 ~ 12:20		
	13:30 ~ 14:30		

表紙写真 (本館 3 階閲覧席) 撮影 / 提供 青山学院大学写真研究部

編集後記

図書館の利用というと、講義の予習復習や演習の準備のときというイメージでしょうか。しかし、講義や演習だけが大学での学びではありません。関心のある事柄について本を手にとり新しい知見を得ると、違った角度から物事をみるすることができます。ぜひ、大学生生活を主体的に送ってください。

(館報編集委員長 酒巻修也)

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World